メータオ・クリニック支援の会（ＪＡＭ）
会報メール　第25号　〔2010年１０月号〕

メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第25号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGO です。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へ JAM の最新の活動を毎月中～下旬ごろ、会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

＜目次＞　　〔ページ〕

グローバルフェスタに出展しました　〔2〕

シンシア先生の本　発売中！　〔2〕

メソト・マンスリー　今月のメソトの様子をお知らせします。

・ 新病棟完成！　（米田　哲）　〔3〕

・ ごあいさつ　（齊藤　信夫）　〔4〕

国内から　（梶　藍子）

・ 第三国定住始まる　〔5〕

国際保健医療協力のなかで　（9）　（小林　潤）　〔6〕

編集後記　〔7〕

次号の予定　〔7〕

グローバルフェスタに出展しました

去る１０月２日（土曜日）、３日（日曜日）に日比谷公園で行われたグローバルフェスタ JAPAN 2010 に出展してきました。
大盛況にて無事に終了することができました。

１０月３日の午後は、**「国境の診療所から見たビルマ/ミャンマーの難民と移民」**をテーマにワークショップも開催しました。３０名近くの方々にお越しいただき、テントに入りきらないほどでした。

お忙しい中、お越しいただき本当にありがとうございました。

（写真：ブースでの様子）

シンシア医師の本　発売中！

**『タイ・ビルマ 国境の難民診療所―
女医シンシア・マウンの物語』**
（新泉社、1800円）

全国の書店、またはアマゾン等で発売中です！！

当会が編集協力した『タイ・ビルマ国境の難民診療所―女医シンシア・マウンの物語』（新泉社、定価1800円）が発売中です。

本書は、当会の支援先であるメータオ・クリニックとその創始者シンシア・マウン医師に焦点をあてたものです。
当会は、さまざまな現地情報の提供、スタッフの梶藍子看護師による体験記の収録等で協力しました。

本書の印税は、当会を通してクリニックへ全額寄付されます。

ぜひお買い求め下さい！！

・・

タイ・ビルマ国境の町メソット。
ビルマ軍事政権の弾圧を逃れてタイにやってきたものの、
お金がなく、病院に行くことができない難民や移民に
無料診察を続けている診療所「メータオ・クリニック」。
自身もカレン難民である院長のシンシア・マウン医師と診療所の
20年以上にわたる取り組みを紹介する。**（本書帯より）**

JAPAN ASSOCIATION FOR MAE TAO CLINIC

根本 敬氏（上智大学外国語学部教授）
「私が尊敬してやまない女性医師シンシアさんの地道な医療活動と、
彼女の人格的な魅力について、本書はとてもわかりやすく紹介してくれている。
メータオ・クリニックが抱える日常の苦難についても明確に書かれている。
本書の日本語訳出版を心から喜びたい。」**（本書解説より）**

メソト・マンスリー

今月のメータオ・クリニックの様子をお届けします。

新病棟完成！

【メソト（タイ北西部）＝米田　哲】

みなさんこんにちは。
先日、JAM の皆様のご支援により建て替え中だった感染症の隔離病棟が完成しました。

文字通りピカピカです。入り口の前には、車椅子のためのスロープまであります。
新しい病棟には、感染症の患者さんのための病棟と、検査や処置のための部屋（心電図やエコー検査など）、そして、多目的に使えるスペースがあり、現在はスタッフのトレーニングや会議などに使われています。

以前は、心電図やエコーをとるには、物置の中で、ダンボールなんかが積まれているホコリのかぶったベットの上を片付けながらとってましたが、今では、自分も、新しく赴任された齊藤先生も、新しい検査室で検査や処置をやりまくってます。

やっぱり、キレイな建物は気持ちがいいですね。この新しい病棟なら、病気じゃなくても入院したくなるかも！？

ちなみに、現在、産科病棟も建て替え中です。小児科医としては、新生児回診で毎日お邪魔するところなので、キレイな病棟の完成が待ち遠しいですね。

（写真：内科第二病棟）

★ ★　現地での活動を日々、更新中です！　★★　ぜひ、ご覧ください。

いまを生き、明日をつくる　(医師　米田　哲のブログ)

http://kodomonoegao.blog74.fc2.com/

ごあいさつ

【メソト（タイ北西部）＝齊藤　信夫】

はじめまして！！

内科医師 6 年目になる齊藤　信夫と申します。10 月 11 日より 6 ヶ月間メータオ・クリニックの内科病棟で働くことになりました。現在到着して間もないのですが、多くの感染症の患者が溢れかえっている病棟で、大変やりがいを感じています。

生まれも育ちも大学も鳥取だったのですが、熱帯地方で働きたいとの夢があり、卒業後、日本で唯一の熱帯医学専門の内科である長崎大学熱研内科に入局しました。　日本で呼吸器感染症を専門として学びながら、フィリピンやタイなどでも熱帯地方特有の感染症（マラリア、デング、レプトスピローシスなど）を勉強する機会が得られました。

そのうち、さらに熱帯感染症の専門性を高めたいと考えるようになり、世界で最も古くからある熱帯医学校であるリバプール熱帯医学校の修士課程を履修しました。
そこで得た知識を実際に現地で活かしたいと考え今回メータオ・クリニックで働かせて頂く事になりました。こちらで働かせてもらうにあたり、推薦していただいた JAM には大変感謝しております。

6 カ月という短い間ですが、精一杯頑張ろうと思います。また、現地から多くの情報をお伝えできればと思います。
何か質問などあれば遠慮なくメール頂ければと思います。 nobio88@yahoo.co.jp

国内から

第三国定住始まる

【東京＝梶　藍子】

2010 年 9 月 28 日、タイ・ビルマ国境メータオ･クリニックから車で約 1 時間の場所にあるメラ難民キャンプから 18 名のビルマ・カレン族難民が来日した。

これは 2008 年 12 月、日本政府が第三国定住による受け入れを閣議で決定したことがはじまりだ。日本政府は 2010 年から 3 年間のパイロットケースとしてタイのメラ難民キャンプに滞在する約 90 名のビルマ難民を受け入れることを表明した。今回 3 家族 18 名が来日したが、それ以外 2 家族 9 名については、家族の体調不良のため、遅れて来日する予定だ。

彼らは第三国定住難民宿泊施設等において健康診断及び安全、生活面等に関するオリエンテーションを受け、その後、約半年間にわたり、定住支援施設における日本語教育、社会生活適応指導、職業相談、職業紹介などの総合的な定住支援を受ける予定である。

しかしながら、この日本の受け入れ表明に対し、メラ難民キャンプの人々の関心は低いようである。

まずは人々が第三国として日本のことを知らないことである。

私自身、メラ難民キャンプを数回訪問したことがあるが、キャンプ内には多くの第三国定住受け入れ先であるアメリカをはじめとした諸外国のＰＲポスターが貼られている。そのポスターではその国の文化や習慣、また実際に第三国定住で渡米した難民の日常の写真が掲載されている。

一方、日本のＰＲ推進は他国には及ばない程度であり、日本が第三国定住事業を歩みはじめたばかりであるという点について大きい。また、日本のイメージが浸透していないことに加えて、来日受け入れ半年後以降の第三国定住事業からの支援の不透明さが指摘されている。

はたしてキャンプ内での出国研修及び来日後 6 カ月間にわたる日本語教育支援のみで定住支援施設退所後、自立し日本の地域社会へ定住できるのか疑問の声が上がっている。

これらの問題にどう日本政府が関わっていくか今後、注目していきたいところである。

最後に、2010 年 11 月にはビルマ国内で総選挙が開催される予定である。

この総選挙では軟禁状態におかれながらＮＬＤ（国民民主連盟）を率いるアウンサウン・スーチーの立候補は認められない予定であり、現軍事政権が圧勝することが示唆されている。これにより各国のメディア等では国内避難民エリアより１０万人以上の難民が流出されるのでは懸念されている。

メータオ･クリニック及び国境沿いに位置する難民キャンプに爆発的に難民が流れでる可能性は大いにあり得る。

日本政府の第三国定住の受け入れ開始とともにタイ・ビルマ国境に滞在するビルマ難民・移民の動向に注目し現地への援助の必要性を今後も伝えていきたい。

出典：
セミナー資料「祖国、難民キャンプ、そして日本。～第三国定住を考える」
2010 年 10 月 5 日　共催社団法人シャンティ国際ボランティア会（ＳＶＡ）
認定ＮＰＯ法人　難民支援協会（ＪＡR）

国際保健医療協力のなかで　（９）

【東京＝小林潤】

現在、ミャンマー人で日本の大学で勉強している学生は1000人以上はいるとのことである。

日本学生支援機構の2008年のデータによれば、一番多いのは中国で7万2千人強、ついで韓国（2万人弱）、台湾（5千人）であり、ベトナム、マレーシア、タイと続きそれぞれの国から 2000-3000 人程度の留学生がきている。13 位のミャンマーまで米国以外はすべてアジアの国々である。

どこの大学にいっても優秀なこれらアジアの大学院生が勉学に励み、よい研究をしている。

しかしながら、これらの優秀な人材を卒後、日本社会に受け入れているかというと極めて少ないのが現状であった。2000 年のデータでは日本の大学卒業以上の人口のなかで、途上国からの流入は0.2%で、カナダ15.5%、アメリカ9.2%、イギリス9.4%、ドイツ8.6%、フランス8.2%と比較しても極端に少なかったのがわかるだろう。

中国人の優秀な研究者とラオス等で国際保健の共同研究をしているが、日本の大学院を卒業して日本の研究所の臨時職員として働いている。昨日は某大学の著名な先生とともに、彼の元で勉強するベトナムからの優秀な博士課程の大学院生と話す機会があったが、共同研究が進むかもしれない。少しずつではあるが、日本の大学を卒業した留学生を日本でも受け入れる傾向は拡大しつつあり、この流れは研究職だけでないようだ。

アジア各国のマーケットが重要になっているなかで、これらの優秀な人材の登用は民間企業でも進みつつあると報道もある。これは国際保健の分野でも進んでいくだろうし、もしくは進めなければならないと思っている。

途上国の保健・医療を扱うこの分野では当然のことであるようだが、実は今まではあまり進んでいなかった。植民地主義や戦争責任による援助といったことが日本の援助と関係していて、それが理由だろうか学問も先進国のものになっていた。しかし、これは他国ではすでに過去のものになっており、イギリスの学会ではスピーカーは半数、アフリカ人となっていることも目のあたりにみたし、アメリカでも同様と聞いている。日本の熱帯医学会では50周年記念ということで海外のゲストを多く招いて、昨年3つのセッションを英語でやったことが画期的であったことのようにこれからである。

また、国際保健医療学会では、留学生をまじえた昨年英語のセッションが企画されたが、今年は継続にいたらず、今後の英語でのセッションの開催の必要性が討議されたりした。

一方、日本の学生が内向きになっているといわれ、日本から海外留学していく数は毎年減少しているとのことである。しかし、日本を横目に、グローバリゼーションは確実に進んでいる。これは経済だけでなく、国際保健でも進んでいることを日本の若い人には認識してほしい。すでに国際保健は先進8カ国だけが討議するものでない。WHO の総会では、タイは多くの若手を送り込み多くの意見だしをして、存在感は日本をはるかに超えていると毎年話を聞く。欧米の国際 NGO の現地事務所では、フィリピン人が上司でその下に日本人の若手が学んでいた。　国際保健は援助における保健ということを超えて、地球規模での保健医療を考える場とすでになってきているし、そういう視点が必要だと思う。

病原体には国境がないのは、インフルエンザの流行で目のあたりにしたと思うが、患者や、保健・医療従事者も国境を超えて動いている。さらに人の健康に、地球環境が密接のからむのはすでに話してきたとおりである。

皆さんのまわりに留学生がいたら是非話してみてほしい、日本で勉強したいと思ってきた人が殆どである。是非、日本が好きになって世界視点で働くことになってほしいと切に思うが、実際は日本が嫌いになって帰る学生も多いと留学生からきいている。本当に残念だし、私も努力しなければと思っている。

編集後記

この写真の奥にそびえたつ山は、なんと言う名前の山でしょう？

答えは、**「富士山」**！
ちなみに手前の緑色の植物たちは、ぶどう畑です。
今まで「新幹線から見る富士山」と「飛行機の窓から見る富士山」と「冬のさむーい日に環八通りから見る富士山」は見たことがあったのですが「山梨県から見る富士山」は、初めて。
（山梨に行ったのも初めて）

どの富士山が一番、きれいだったかって？
うーん。私にとっては、どこから見ても、なんだかテンションがあがる！ってことだけは確実なようです。

皆さんのいちおしは、どこから見る富士山ですか？？（＾＾）

次号の予定

次号の JAM の会報は、１１月中～下旬ごろ発行の予定です。
ホームページは、随時更新していきますので　ぜひ、お時間があるときにご覧ください。

◇◆◇

メータオ・クリニック支援の会　　Japan Association for Mae Tao Clinic（JAM）

日本事務局宛てＥ メール　：　support@japanmaetao.org

ホームページアドレス　　：　www.japanmaetao.org

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。

◇◆◇